

自立支援協議会 はたらく部会の年間報告

宇治市自立支援協議会はたらく部会 部会長 ワークネットきょうと 金森翔

■ 今年度の実施状況について

前年度の引き継ぎがコロナ禍においてできないまま4月より偶数月に運営委員会、5月より奇数月に全大会を開いた。

■ 会の目的

対角線モデルをベースに宇治市内で「働く」「働き続ける」をテーマにこれまで話し合ってきたが、参画団体の幅が広く、目的や目標の具体的な焦点付が定まらない状況がつついていた中で、全体会への参加団体が減っていることが課題となっていたために、今年度は希望者の多い内容で学習とそれをベースのGWを行うことでまずは参加し話し合える素地作りを行うことと、時間帯も夕方の早い時間に行うこととなった。

■ 全体会の内容及び参加者数 37 団体

7月 コロナ禍における各事業所の取組みや、感染対策について 20名

9月 HWによる障害者雇用の就労の現状等について 18名

11月 宇治支援学校の取組みについて 20名

1月 精神障害者の働く（コロナ感染者の増大につき中止）

3月 年度振り返りとコロナ禍における取組みと感染対策及び事業の実態（ZOOM）

■ 今年度の振り返り

今回、会の内容を分かりやすくしたことでテーマにもよるが一定参加者が増えた傾向はあり、現状は来年度も引き続き同様の形を続けていくことが望ましいと運営会議の中では判断をしている。「精神障害者の働く」は来年度に実施予定となっており、現状は原則ZOOMで実施予定となっている。

■ その他

ZOOMにすることのメリットとして、各事業所の参加のしやすさもある一方で会の中で内容を深めていくことができるかは課題であり、今後コロナが終息していくのであれば、現状は当初の集まって会をなす形に戻していきたいと考えている。